SUPPORTING
CHINA
BUSINESS

LT CONSULTING GROUP

2011年10月26日

「LT会」会報第 11-15 号(総 93 号)

LT コンサルティンググループ

カンフル剤の乱用による内分泌失調症に注意

こここのところ、世界経済といわず、中国経済といわず、伝わってくるのはマイナスのものばかりだ。

ヨーロッパでは依然として難しい局面が続いている。かつて世界をリードした米経済は更に酷い状態で、相次いで出された経済緩和政策も、ほんの一時回復の兆しを見せたものの、瞬く間に息切れしてしまった。

中国内では最近中国経済に関する悪い噂が頻繁に囁かれている。去年第四四半期から中国経済の減速が始まったとされ、経済成長率は第一四半期の9.7%、第二四半期の9.5%から第三四半期の9.1%へと下がり続け、今や最も悲観的な予測では、第四四半期の成長率は8%とされる。

だが、これらは必ずしも根拠のないものではない。先ごろ発表された9月の電力使用量は大幅にダウンしたし、中国物流購買連合会の発表では、9月のPMI指数が51.2ポイントで、製造業に勢いがいないことを表している。HBC銀行のPMI指数は3ヶ月連続で50ポイントの成長分岐点を下回っている。不動産市場の成約件数は全国的に落ち込み、市場では一部不動産の値下がりが止まらない。不動産開発の新規着工も大幅に減少している。不動産に関連して家具や家電等の消費財でも日に日に勢いが低下している。自動車販売はマイカー規制と収入の頭打ちという二重の影響によって、需要にブレーキがかかっている。経済の成長スピードと不動産市場の引き締め政策は、今や財政収入の伸びにも明らかに影響している。

中長期的、ミクロ実態経済においては、更に悪い情報が引きも切らない様相を呈している。

先週閉会した第110回広州交易会では、契約成約件数が史上最低を記録した。商務部のスポークスマンである沈丹陽氏は月例新聞発表会の席上、今後半年間の対外貿易が非常に厳しい状態にあると表明した。

温州の中小企業経営者が年初から失踪し始めた事件は、今や江蘇省を初め全国各地に広まっている。中国の今後の経済と企業の情勢に関する調査では、企業家たちは一斉に『最悪だ。』『今よりも更に悪くなる。』等と回答している。

SUPPORTING
CHINA
BUSINESS

LT CONSULTING GROUP

このような状況を目の当たりにして、世界の大手経済機構や投資銀行は相次いで世界と中国経済の成長を下方修正し始めた。だが、中国経済がハードランディングするのか否かという判断は、未だ議論が分かれたままだ。

2008年の米金融危機の時には、北京の経済政策の専門家達は4兆元を注ぎ込んで経済刺激策を採ると共に、10兆元規模の融資を行い、世界経済を牽引して金融危機を脱することに成功した。当然中国経済自体も落ち込みから一転リバウンドを果たし、これらの経済政策は大きな賞賛を受けた。

だがしかし、経済は人に例えられる。エンロンがわずか20年で200億ドルになり、徳隆が23年で200億元になったが、ある日突然死したのは、いずれもその成長があまりにも自然の摂理に反していた結果なのだろう。そうしてみると、世界経済と中国経済が今反動期を迎えるに至った根本原因は、過去に打ったカンフル剤の副作用ではないか。

中国経済は四兆元の刺激策で急速に回復したが、その副作用も少なからずあった。過去2年間にインフレが台頭し、経済の構造調整の足を引っ張った。投資のGDPに占める割合が60%以上になり、一方では地方政府の債務が激増し、政府の発表では全国の地方政府による債務残高は107174億元に達している。

過度のカンフル剤の注入は、内分泌失調症を引き起こす。中国経済は成長が減速しても、インフレは止まらず、まるで見た目は発熱しているように見える病人が、実は悪寒を覚えているようなものだ。カンフル剤を使用すれば、その効果は早いですが、何度も使用していると、経済自体のリズムに支障をきたす。長期に渡って常用すれば副作用は更に酷くなる。

だが、中国経済の希望は、経済の激流の中においても、産業のレベルアップと企業の転換グレードアップが地味だが、途切れることなく進んでいることだ。何かあるとすぐカンフル剤に頼るのではなく、こころばらくは、腹をくくって地道に我慢するしかない。

「経済観察報」 2011-10-23

以上